

平成28年11月30日 北部地区授業研究会

会場	川崎市立東生田小学校
参加人数	27人
<p>○3年生「クミクミックス」(造形遊び) 松浦里絵先生 藤原千佳先生</p> <ul style="list-style-type: none">子どもたちが慎重なので、ダイナミックに造形遊びを楽しんでほしいという願いのもと、大きな材料を豊富に用意して活動を行った。タイトルを段ボールで組み合わせて提示したり、安全指導や安全への配慮がしっかりとなされていたりしてとてもよかった。どの子も楽しそうに活動をしていた。大きいのを作ってほしいという願いを教師は持っていたが、小さい活動もあったが、明日の活動でほかの子供たちの様子を見ることでまた大きく広がっていくのではないかと思っている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>○5年生「光のハーモニー」(造形遊び) 真鍋遼平先生</p> <ul style="list-style-type: none">振り返りの4観点を示すことで、子どもたちの活動に広がりが出てきた。作り出す喜びに子どもたちが邁進していた。1時間目の投げかけにより子どもたち自身が材料を用意したり、教師の材料の準備(プラスチックコップ、セロハンなど)が豊富にあったりしたこともよかったからと考えられる。あえて場を狭くして友達どうしのかかわりができるようにしたり、光がきれいに見えるホワイトボードを持ってきたりしたことによって、意欲がより高まり、よい活動へとつながったと考えられる。自然教室などで光の道を作ったり、和紙を使ったりした発展授業など、ほかの活動への広がりが期待できる。学年で一致団結して教材研究していた様子が協議の中で伝わってきて、良い授業となったように思う。 	

<指導講評> 木月小学校 尾崎美幸先生

- 目的をもって作り始めていた子もいたが、活動の最初からそう考えていたわけではないのでそれは造形遊びとなる。ダイナミックな活動にするには、「組む」を意識させる。
- お互いにかかわりあいながら活動していた。ビー玉を転がして光が動く様子をみんなに見せて歩く子もいて、どの子も動いて活動していた。終わり方はお互いの作品を紹介したり、みんなで見合ったりしてもよいかもしれない。
- 造形遊びは、まず指導のねらいを明確にする。そこから活動場所や材料を学年で話し合う。投げかけを工夫する。それがとても大切なこと。
- 子どもたちは楽しんでいるか、主体的に活動しているか、を見るようにするとよい。

